

野洲支部主催『陶芸教室』の結果報告

「何を作ろうかしら！」陶芸教室の参加者から出た第一声でした。さわやかに晴れわたった9月23日の朝、大津市膳所にある生涯学習センターに親鴨9名が集い「土」・「形」・「焼」の陶芸に挑戦しました。

古信楽土の土練りからはじめ、ロクロの使い方やタタラの作り方の基本説明から、手ロクロで土を積み上げ成形する「形」までの実践です。

見本が目の前にあっても、土はなかなか作り手の言うことを聞いてくれませんでした。午前10時から約4時間、悪戦苦闘の末、湯のみ6個、片口・湯こぼし各1個、ぐい呑み4個、小皿10個、香合2個等が見事に創作されました。熱中して疲れなければよいがと心配していましたが、「何とかできちゃったネ！」という感想を聞きながら、楽しかった陶芸教室の一日が終わりました。

「焼」き上がりを楽しみにしていた親鴨の作品は、1ヶ月後、丁度親鴨会の開催行事であった「近江八幡・奥島ハイキングと秋の味覚をたのしむ会」の時にできあがりました。

「今夜はこのぐい呑みでお酒を飲むのが楽しみですヨ」「大きすぎて飲みすぎるんじゃないですか！」親鴨の会話が弾みます。透明で薄い灰色の釉薬が掛櫛目のついた小皿も料理を引き立たせそうです。

機会があれば、また陶芸教室を開催したいと思いますのでその時は是非ご参加下さい。

以 上

(担当：和田 義雄)